



# マンガルトール村だより No.7 最終号



Thank you!

発行：地球の木 協力：SAGUN/マンガルトール SAGUN 協力委員会

2022年8月1日

## 「幸せ分かち合いムーブメント」はマンガルトール村から新しい地域へ

ネパールチームリーダー 乳井京子

マンガルトール村を拠点とした「幸せ分かち合いムーブメント」（2007～2021年）は、大勢の村人に笑顔と自分達の未来を選択する自由をもたらし、開発の成功例を創ることができました。地域の人々と地方政府にプログラムを委譲できましたことをご報告いたします。会員の皆様をはじめ、「しあわせ村民キャンペーン」や「教育サポーター募金」でご支援下さった皆様に心より感謝を捧げます。

以前から親交のあった、村落開発の専門家、SAGUNのカマル・フヤルさんから「地球の木とSAGUNは開発の考え方が似ているので、一緒に少数民族の支援をしませんか」という要請を受けた時の喜びを鮮明に覚えています。「開発は初めの一步から村人の手で」「村人を幸せにしない開発はやらない方がまし」という理念に賛同し、パートナーシップを組んで15年。大地震や洪水時にもSAGUNの姿勢は変わることがありませんでした。「村の運命を決めるのは村人たち」という村人への尊敬が、村人たちの自立を助長したのだと思います。

去年の、外部専門家による評価調査の結果は、私たちの支援が村の人々にとって満足のいくものだったことを証してくれました。評価者は「インタビューしたすべての人が満足していた」「こんなプログラムは、今までに見たことがない」「評価している私まで幸せを感じた!」と感想を述べました。



さて、皆様のご支援は、この地域の人々にどんな違いを創ったでしょう。報告をご覧になって、皆様も共に幸せを分かち合っていたら幸いです。

なお、私たちは、マンガルトール村（後にロシ農村自治体に拡大）で創った開発モデルに倣い、新たな支援地インドラサロワール農村自治体で『質の高い教育』に特化した新規プログラムをスタートしました。引き続き温かいご支援をお願いいたします。

### 尊敬する地球の木ファミリーの皆様

私たちはマンガルトール村での「幸せ分かち合いムーブメント」を終えました。15年間、人々と一緒に仕事をする機会を与えて下さったことを、地球の木の皆様に心から感謝いたします。

活動を違う郡に移動しますが、マンガルトール村では、必要に応じ、連携を継続していきます。村人たちから、これからも一緒にいてほしいと頼まれたからです。他のNGOと比べると予算も活動も小さいものですが、彼らは私たちの活動が小さいと一度も言ったことはなく、むしろ、SAGUNや地球の木のようなべきであり、お手本だと言っています。私たちが彼らの心の中にいる間にマンガルトールを離れました。そのため、地球の木のことをいつまでも忘れることはないでしょう。

マンガルトール村の人々がこの間、得られたと感じている多くのものに加え、ムクマヤさんという村の女性スタッフを通して得た成果も大きいです。ムクマヤさんは、SAGUNと一緒に働いて信頼を獲得しました。ムクさんが選挙に立候補すると勝てるだろうと見込んで、大きな政党がこの人を立候補者に指名しました。僅かな票差で落選しましたが、このプログラムに参加した人が政党の代表としてマンガルトール村の人々から認められたことは大きな成果と言えるでしょう。

ご支援して下さった皆様のお気持ちに、心から祝福を申し上げます。



感謝を込めて

SAGUN 事務局長 マハンタ・バブ・マハルジャン

## 幸せ分かち合いムーブメント(SHM) のあゆみ

- 2006 **国王が全権を国民に返還。10年続いた内戦が終結。**  
新規プロジェクト調査でマンガルタール村の高校を訪れる(丸谷・関川)
- 2007 **マオイストを含む暫定政府が発足。**  
地球の木総会で新規プログラムを承認。  
学校の屋上に図書室の建設。  
プログラムコーディネーターにサルバジット・ラマさん、マンガルタール・SAGUN 協力委員会の立ち上げ。  
奨学生：11年生5人、12年生5人、教師の雇用、PRA/PLA 参加型評価トレーニング(4日間)の実施。奨学生、教師、大学生、SAGUN スタッフ、地球の木など合計30名が参加。
- 2008 **ネパール連邦民主共和制へ。**  
カマル・フヤルさんの小論文「PRAを通じた幸せわかち合い」を翻訳し、会員に配布  
図書室完成 落成式に参加。奨学生16人。  
野菜栽培による収入創出プログラム、地域情報誌「ロシ・ラハール」発行。
- 2009 初スタディツアー実施(7名参加)その後6回実施。
- 2010 村の各地で「幸せ分かち合い」の考え方を広めるワークショップを実施  
地球の木では「しあわせ村民キャンペーン」を実施。寄付を集め共感者を増やす。
- 2011 **東日本大震災。**SAGUN、村の委員会、高校生たちから励ましの手紙やはがきが届く。  
地球の木20周年記念講座にサルバジット・ラマさんを招聘。
- 2012 隣のカルパチョーク村でもユースクラブや女性たちの活動始まる。5年間の評価調査。
- 2015 **4月・5月にネパールで大地震。**緊急支援を開始。第1・2次支援。6月に現地調査。  
**新憲法の公布。**SAGUN 副代表エソダ・シュレスタさん招聘。ヤギの飼育始まる。
- 2016 2つの小学校に補助教室を建設。5か年計画立案ワークショップを全地域で実施。
- 2017 **地方自治体の長を決める全国一斉地方選挙20年ぶりに実施される。**近隣のポカリナラヤンスタン村コカム地区でヤギの飼育始まる。同村の状況調査。ともだちキャンペーンで高校生のはがきの交流。
- 2018 教育サポーター募金を開始。地球の木カフェを地域で開催。
- 2019 水害支援。給水用パイプラインの修理。
- 2021 ロシ農村自治体での活動を終了。行政に委譲。外部評価調査を実施。

### 1. 幸せ分かち合いムーブメントの目指したもの

2007年当初の目標は、少数民族、貧困家庭の子どもたちの高校進学、学習環境の整備、貧困家庭の収入創出でした。「空腹のまま寝る子がいなくなることも目標のひとつでした。

第1期奨学生



その後、目標は、弱い立場にある人々が自ら力をつけて住民主体の地域作りを行えるようになる、「幸せ分かち合いムーブメント(SHM)」のコンセプトをネパール・日本に広める、と包括的になり、2016年中期計画では以下の4点にシフトしました。

- ① 公立学校の教育を充実させ、住民参加の仕組みを整えて、人口流出を押さえる。
- ② 協同組合支援。
- ③ 住民参加の度合いを深めながら『開発のモデル』をめざす。
- ④ 行政と協働してムーブメントを推進し、フェーズアウトできる状態にもって行く。

時代につれ、状況に応じて目標は変化しました。

### 2. SHM が地域にもたらしたもの

「SHMは、村人の自主性を表に出すことに成功した特異なプログラムの一つです」とSAGUNのマハンタさんは評価しています。SHMは、貧困家庭の女子に将来を選択する自由を与え、村の女性たちの地位を上げました。開発から置き去りにされていた人々が声を上げ、行政も巻き込んで、自ら開発の担い手となって生活改善に取り組むようになりました。

### 3. ムクさん、マンガルタール区長に立候補

ローカル・ファシリテーターとして村の人々の世話をしていたムク・マヤ・タマンさんが2022年5月の地方選挙に立候補しました。27票の僅差で落選しましたが、「ネ



パール・ kongress 党から指名されたことは、大きな勝利です」とSAGUNのカマルさん。ムクさんの、未来を拓く可能性に期待しています。



## 教育活動

### 図書室

マンガルトール村の公立高校を拠点に始めた「幸せ分かち合いムーブメント」は、教育に重点を置きました。まず最初は学校の図書室の建設でした。幸い、元小学校教諭の杉澤先生からのご寄付があり、学校の屋上に図書室を作りました。書庫の隣には閲覧室。図書カードを作り、貸し出しのルールもできました。教科書を買えない生徒たちのための教科書、参考書、小説、雑誌なども揃え、たいへんな人気でした。毎年図書を増やし、蔵書は6,000冊以上になりました。その後各地区で図書館活動が広まるきっかけとなりました。



図書館の閲覧室で奨学生たちにインタビュー



### [村人の声]

- ・生徒たちは自分の興味のある本を読むようになりました。授業の出席率も上がって、自分の世界を広げるための知識を得ることができました。
- ・教師の知識を広げることに役立ちました。

山の上のラジャバスの学校にも図書室ができました。 →



### 奨学生



当時「10+2（テンプラストゥー）」と呼ばれていた、大学にあがる前の2年間の教育を受けられるように、高校生に奨学金制度を設けました。村で唯一の高校だったため、歩いて2時間かかって通う生徒もいました。

村に張り紙をして募集。面接をして、在校生も含めた様々な職業の選考委員により奨学生は選ばれました。基準は成績ではなく、経済状況、少数民族、女性、遠くから通ってくる人を優先しました。村からの要望で、金額は少なくともより多くの生徒を支援したいと、2年目からは11年生、12年生それぞれ8名、計16名の奨学生を毎年選びました。女性101名、男性9名、計110名が奨学金を受けることができました。

卒業生の中に、村の小学校や中学校で教えている人がいるのは頼もしいことです。

### [村人の声]

- ・生徒も保護者もこの奨学金制度にとっても感謝しています。なぜなら、経済的な理由で勉強を続けることができなかつたり、続けたとしても親が大変な思いをして子どもを学校に行かせたりといった苦勞があったからです。卒業後、学校の先生や協同組合に就職した人、カトマンズで学士号、修士号を取得した人などがいます。
- ・私の家は経済状態が悪く、もし奨学金がなかったら進学することができなかつたでしょう。おかげで、スムーズに勉強を進めることができました。

マンガルトール村の学校で教えるようになった元奨学生たち。

左から、  
アンジャナさん、  
プレムさん、  
ジャナクマヤさん。



## 教師サポート

ネパールの公立校では教師不足のところが多く、農村部では教育の質も高くありません。村からの強い要望により、3つの小学校で地元の教師を採用する支援を行いました。この支援は、子どもたちの教育を受ける権利を高めるとともに、教師の育成にもつながっています。SAGUNの教育専門家による教師トレーニングに参加する機会を提供し、スタッフが頻繁にそれぞれの学校を訪問し、適切な指導方法についてアドバイスをしました。訓練を受けた教師が、生徒たちにより良い学習の機会を提供し、教師不足だったコミュニティに貢献することができました。

### 【村人の声】

- ・村出身の先生は、子どもたちにとっても人気です。
- ・私は、様々なトレーニングを受けました。生徒たちが実際の生活の中で変化していくことで、私のコミュニティは恩恵を受けています。



サポートティーチャーのマニタさん

## 教師トレーニング

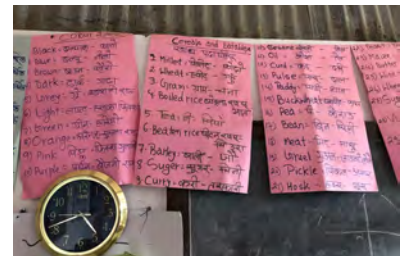
近隣の小中学校・高校の教師を対象に、年に1回、2日間の教師トレーニングを行いました。ネパールでは、このような研修を受けるときには、手当が出るのが通例ですが、私たちの研修は手当は出しませんが、内容が充実しているため、参加者の満足度が高いと言われています。

これまで取り上げられたテーマは、参加型の教育法、親の関わり方、体罰によらない、子ども主体の教授法と課題、教室における批判的立場からの教育法など。

公立学校の英語教育が遅れているため、英語が弱い生徒が多く、私立校の生徒と比べると格差が大きい。そこで、専門家を呼んで英語教育の研修も行いました。

### 【村人の声】

- ・学んだことが役立っています。生徒たちの行動・規律に改善が見られました。
- ・教室に手作りのポスターや標語を貼るようになりました。



小学校に貼られたネパール語と英語の単語表

## 作文トレーニング・コンテスト



高校生が自分達の意見をきちんと述べることができるように、2010年から2017年まで、作文のトレーニングやコンテストを実施しました。近隣の学校から参加者を募集し、テーマを決めて作文を書いてもらいます。「幹線道路の建設がもたらした経済的・物理的影響」といったテーマもありました。

上位5人に賞が与えられ、優勝者の作文は地域情報誌「ロシ・ラハール」

(p.8参照)に掲載され、作文への関心が高まりました。





## 収入創出プログラム（野菜栽培／ヤギの飼育）



支援地のロシ地域は山間の狭い斜面の土地が多く厳しい環境にあります。地球の木とSAGUNは子ども達を学校に行かせるためには親たちが貧困から脱却して経済力をつけ生活改善をするべきであると考え、貧困家庭、特に女性を対象に少額融資による野菜の収入創出プログラムを2008年から実施しました。当初、ほとんどの人たちが農民に貸したローンを返してもらうのは不可能だと考えて



女性たちが集まり、情報交換することが、自立への一歩。

ていましたが、農民たちはきちんと返済しました。特にヤギの飼育グループの女性たちが「私がヤギの飼い主だ」という意識をもって参加したことが注目されます。

私たちは、支援地の人々が経済援助に依存するのではなく、自らの知恵と労働で資金を増やしていく住民参加型の開発プログラムを進めてきました。マンガルタール村とカルパチョーク村の貧困家庭から選出された農民が年間5,000ルピー（約5,000円）の貸付金を元手に野菜作りに取り組みました。参加者は種から野菜を育て収穫した作物の7割を市場で売り、残りを家庭で消費します。2015年には地域ごとに回転していた資金を集め、トラクターを購入し収穫量をあげることができました。



大地震後から始まった「ヤギ飼育による収入創出プログラム」ではより多くの収入を得ることに成功し、回転資金が次々に循環しています。2021年には新たに29家族に資金提供し、前の年に貸した44家族から資金回収したお金を使いました。このプログラムはヤギを放牧できる土地のあるネパール農村部で収益を上げるのにとっても有効な手段となりました。

約80-85%の家庭がヤギの飼育に成功をおさめました。

また最近では「ビニールハウス」を活用した換金性の高い野菜の生産が行われており生産量が順調に増加しています。ビニールハウスは生産性が高いということで住民からの要望がとても多いのです。トマト、カリフラワー、コリアンダー、唐辛子など高価格の野菜を優先して生産しており、高収入を得られるようになりました。野菜作りには湾岸諸国などの出稼ぎから帰国した多くの若者も参加して、コロナ禍が原因で他の都市や国への移動ができない中、地元においてできる貴重な収入創出源となりました。

生育した野菜の販売でもコロナ禍で大都市への移動販売が制限されている中、買い取り業者が村に向いて回収し、販売を引き受けてくれ、地域住民がお互いに助け合って生活を支えあうことでコロナの危機を乗り切っています。

SAGUNは単に資金の融通を支援するだけでなく、専門家を招いてヤギや野菜の病気や病害虫の防ぎ方、肥料や飼料、薬、有機殺虫剤の作り方、そしてビニールハウスの管理の仕方、ビジネスのやり方などの講習会やトレーニングを行いました。地域情報誌「ロシ・ラハール」にも情報を載せています。



トラクターを購入し、葉付きニンニクが大豊作！

### 【村人の声】

- ・私は資金を使って豆、カボチャ、ニンニク、ジャガイモなどの野菜を植え、約25,000ルピーの利益を上げることができました。このお金は孫の教育費や家計費に充てました。感謝しています。
- ・トマトを中心にいんげん、唐辛子、カボチャなどの野菜を栽培し、約15,000ルピーの利益を上げることができました。このお金で子どもたちの教育費や家計に充てることができ助かりました。

### 防水シート、医療品、衛生キット

2015年4月、ネパールの中部ゴルカ地区を震源とするマグニチュード7.8の大地震がネパールを襲いました。70年ぶりに発生した大地震によって9,000人近くが死亡し、22,000人以上の人が負傷しました。多くの建築物は昔からのレンガ積み工法で作られていたため、地震に弱く89万戸以上の家屋が全壊または半壊し、300万人が家を失いました。また、学校、病院、文化遺産などのインフラが損なわれただけでなく、交通の遮断、食料や物資の流通ストップ、休校など、人々の生活や地域経済にも大きな打撃を与えました。

私たちが支援しているマンガルタール村があるカブレ郡も例外ではなく、多くの方が亡くなられたり、負傷しても病院へ行けない人が続出して、道路や家屋の損壊、食料や医薬品の不足で困窮する人であふれました。地球の木が会員の寄付で建てた高校の図書室もこの地震で崩壊してしまいました。4月、5月と2度にわたる大地震で支援地の90%以上の家屋が損壊したため、緊急の支援が必要でした。

そんな中、いち早く駆けつけ手を差し伸べたのが地球の木のパートナーのSAGUNです。SAGUNは、マンガルタール村とその周辺地域の被災者のために、何が足りなくて、何を支援しなくていけないかを地震の4日後現地にかけて調査し、素早く家屋の損壊を補修するための防水シート、医薬品、そして5歳以下の子どもがいる世帯や高齢者には衛生キット（毛布、マットレス、蚊帳、石鹸など）の配布を行いました。対象者は4行政村、シートの配布数は2,000を超えました。



### 仮設シェルター、大工・石工のトレーニング

第2次支援として、マンガルタール村95世帯とポカリナラヤンスタン村50世帯に仮設シェルターの資材を提供しました。また、住宅再建に必要な技術を習得するための2ヶ月間の技術トレーニングを実施しました。大工と石工の宿泊型研修で、宿泊所の前にモデル家屋を建設しました。



### 補助教室の建設



第3次支援は、損壊した校舎の代わりに補助教室の建設を行いました。マンガルタール村の2つの小学校を選定し、建てた2部屋の補助教室は、子どもたちを、ヒビが入った校舎で学ぶ危険から守ることができました。この事業は、かながわ国際交流財団の民衆協力基金の助成で実現しました。

その後、壊れた校舎は次々に新しく立派な校舎に建て替えられています。地震後に建てた補助教室は私たちとの絆の記念として壊さず、図書室などに利用しています。

### 【村人の声】

- ・地震直後にSAGUNの人たちが来てくれてとても嬉しく思います。さらに、配布された物資はすべて、SAGUNと地域の人たちとの話し合いで決められたことが特によかったです。
- ・衛生キットは地震によってもたらされたさまざまな影響に対し、大いに役立ちました。
- ・村の教員たちは、心理社会カウンセリングのトレーナー用トレーニングを受けました。教員たちは、この研修が優れたものであり、村人がトラウマを処理するのに役立ったと言っています。
- ・仮設シェルターの実施工程や対象世帯の選考基準は高く評価され、目立った争いごとはありませんでした。
- ・仮設シェルターにより、貧しい被災家庭が雨や暑さから身を守ることができました。
- ・技術トレーニング参加者全員が研修を完了し、「耐震性のある家屋」の建設に従事しました。





村人と良い人間関係を築く……これは当プログラムが始まった当初からとても大事にしていたことです。パートナーのSAGUNのメンバーとのコミュニケーション、村の人たちと知り合うこと、そして地球の木会員と村の人たちとのつながりを作ってきました。

村の人たちとの最初の濃い交流は、2007年に奨学生を含む村の若者たちと4日間のPRAトレーニング（参加型状況調査を行うためのトレーニング）に地球の木から2名参加したことです。「村の開発ははじめの一步から村人の手で」が合言葉の「幸せ分かち合いムーブメント」ですから、まずは村のことを自分たちで知ろうということで、このトレーニングを行いました。参加者は全部で約30名。カマルさんたちが進行役で、それは、それは楽しいワークショップでした。途中にゲームが入り、笑い声や歌で満ち溢れていました。1日目は開発について、2日目は調査に使う様々な参加型ツールの紹介。そして3日目にはピンタリ地区で実地訓練。最初に住人たちを集め、説明をして協力を求めました。最後の日はふりかえりを行い、参加者がそれぞれの地域で状況調査を行う計画を立てました。この時参加した若者は今では各地域で重要な役割を担っています。

### スタディツアー

1週間のネパールスタディツアーを7回行いました。参加者は合計32名。一番心に残るのはなんといっても2、3泊の村でのホームステイでした。にわとりの鳴き声、薪が燃える匂いで目を覚まし、水牛の乳搾り、掃除、薪割りなどのお手伝い。朝散歩をすると呼び止められ、ミルクティーをご馳走になる。参加者は家族のあり方、自然な暮らし、生きる力、多くのことを感じ、考え、後の人生に生かしていることと思います。



奨学生と交流

識字教室参加者とかたるた

歓迎の歌を歌うホスト

お祝いの踊りの輪に入る

### しあわせ村民キャンペーン…はがきの交換

2010年には、「しあわせ村民キャンペーン」と名づけて、一口1,000円の寄付と健康な生活をすればマンガルタルの村民になれる、そしてメッセージを送れば村からはがきが届くという企画を行いました。寄付をくださった方にこのようなはがきが届きました。手すきのロクタ紙で作ったものです。



のぶごさん、私はサビタです。中学校の教員で、同時に教育学の修士課程で勉強中です。日本の方と幸せを分かち合いたいと思います。ここで大切にしているのは山の上にあるブミチュリ寺院と緑の森です。機会がありましたらどうぞネパールにいらしてください。

### SAGUN スタッフを招いて

SAGUNの理事やスタッフを招聘してワークショップや講演会を開き、会員との交流を図りました。カマルさんの参加型ワークショップは来日のたびに開催。スタッフのサルバジットさんは地球の木20周年の際に笛のコンサートを。副代表のエソダさんはネパール大地震の様子を報告してくれました。

## 地方情報誌「ロシラハール」



「ロシ川の波」という名の地方情報誌は、幸せ分かち合いムーブメントの考えをロシ川周辺地域だけでなくカトマンズの NGO などに広めるのに大きく貢献してくれました。野菜作りやヤギの飼育など収入創出プログラムの成功例、作文コンテストの優勝作品、ヤギが病気になった時の手当ての仕方など地域密着の話題は、紙媒体の少ない地域の人々からとても歓迎されました。

また、地球の木のプログラムにはなかった眼科検診や健康診断など、地域の人々のニーズを満たすことができたのも、ロシラハールのお蔭。カトマンズの病院が無料で眼科健診や白内障の手術をしてくれました。ロシ川の波のように今も幸せ分かち合いムーブメントのコンセプトは地域に脈々と流れています。

### 新規プログラムのご紹介と支援継続のお願い

地球の木とパートナーNGO・SAGUN は、ロシ地域での 15 年にわたる活動の中で、住民参加型開発のモデルを創ることができました。この成功例に倣い、新たな地、インドラサロワール農村自治体で 23 校を拠点に、教育の質の向上をめざす新規プログラムが昨年秋から始まっています。今回は、初めから地方政府と協力してプログラムを進めます。開発の流れから置き去りにされがちな少数民族の人々が、意見を主張することができるように、作文トレーニングを行い、地方情報誌を発行します。社会の不条理や不公正をきちんと言葉で表現し、行動に移すことのできるリーダーを養成し、地域を活性化します。私たちの活動を引き続きご支援下さいますようお願い申し上げます。



### 「幸せ分かち合い募金」のご案内

あなたのサポートで、ネパールの少数民族の若者たちが、『質の高い教育』を受け、未来を選択する自由を手に入れます。元気な村づくりに参加しませんか？

一口 1,000 円 何口でも

振込先：郵便振替 00260-5-14129 または

横浜銀行 新横浜支店（普通）1399575

口座名義：（どちらも）特定非営利活動法人 地球の木



段々畑の上にある  
インドラサロワールの学校

- ◆ 発行：地球の木 / 協力：SAGUN、マンガルトール SAGUN 協力委員会
- ◆ 村だより制作：乳井京子、勝田文隆、丸谷士都子 翻訳：ディリップ・ネパール、磯野昌子
- ◆ 特定非営利活動法人 地球の木 〒231-0032 横浜市中区不老町 1-3-3 フェニックス関内 2F  
Tel: 045-228-1575 Fax: 045-228-1578